

東久留米市立図書館協議会による令和4年度図書館事業評価について

図書館協議会では、年度ごとに図書館事業について評価を行っています。令和3年度は、令和3年12月4日～25日に行われた利用者満足度調査の実績を基に、新たな体制での図書館運営について事業評価と提案を行いました。

令和4年度は、「第三次 東久留米市子ども読書活動推進計画」（令和2年2月）が策定されてから3年が経過しました。これまで図書館では、同計画に基づき「自由で自主的な子どもの読書活動を推進するための読書環境を整備する」「子どもの多様な読書活動と図書館の利用を促し生涯学習の基礎を養う」「特別な支援を必要とする子どもの読書や学習を支援する」を目的・意図として、子ども読書活動推進事業に取り組んできましたが、子どもの実態やニーズと図書館事業が合致しているか、必要な事業とは何かを見直す必要があります。

そのため、令和4年度事業評価では、これまで定例事業として実施してきた子ども向け事業について、図書館協議会の意見をまとめました。

（子ども読書応援団について）

- ・読み聞かせ入門講座は、人気があり必要とされているのであれば、もう少し回数を増やした方がいいのではないか。

（幼稚園・保育園訪問）

- ・入園前の子どもと保護者を対象にしたおはなし会が好評だったのであれば、こういうことも幼稚園にお知らせしたら、依頼する側も分かりやすいのではないか。

（その他）

- ・第三次東久留米市子ども読書活動推進計画はコロナ禍前に策定されたもので、この計画の最中にGIGAスクール構想が始まったことによる影響などに関して評価することは難しいと思うが、少なくとも次の計画には反映してもらいたい。
- ・文部科学省から第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が出ているので、それを参考に次の子ども読書活動推進計画に取り組めばいいと思う。
- ・学校訪問、学校への貸し出し、図書館協力団体との協力事業などの数字も入れてはどうか。
- ・子ども読書活動推進計画の基本的方針として「発達段階ごとの効果的な読書活動」「読むことと読書のたのしみを社会全体で」「子ども読書応援団の運用」など、これらに対応する形で事業の評価をまとめてはどうか。
- ・図書館の対応としてコロナ禍3年間について、記録の意味でも残しておくことが重要だと思う。

該当する第三次東久留米市子ども読書活動推進計画の基本方針：1 発達段階ごとの効果的な読書活動			
事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
ブックスタート	乳幼児の親子読書のきっかけ作りとして、健康課と連携し、1歳6カ月児健診で絵本とブックリスト、図書館の利用案内をセットにして配布している。	実施内容：1歳6カ月児健診に来場の親子に、絵本1冊とブックリスト「絵本となかよし」「えほんだいすき」、図書館の利用案内をセットにしたものを配布。 参加人数：814人	コロナ禍以前は、健診の待ち時間に個別に声をかけ読み聞かせを行っていたが、令和４年度時点では再開していない。配布する絵本については、NPOブックスタートを通して、定番の絵本を中心に選定しており、多くの親子に良質な絵本を届けることができた。 今後読み聞かせを再開する体制を整えていくことが課題である。
幼稚園・保育園訪問	申し込みのあった市内の幼稚園・保育園に図書館の職員が出向き、おはなし会を実施している。 対象：市内の幼稚園・保育園、わかくさ学園	実施内容：読み聞かせ、紙芝居、手遊びなど、年齢に合わせたおはなし会 実施園：市内幼稚園・保育園6園、わかくさ学園 参加人数：子ども283人、保護者13人、園職員37人	多くの園児、保育者におはなし会を届けることができた。入園前の子どもと保護者を対象としたおはなし会をリクエストする園もあった。おはなし会と併せて、図書館をPRする機会にもなった。 園によって子どもたちの様子や対象年齢が大きく異なるため、それに合うプログラムを工夫する必要があったが、おおむね好評だった。 令和５年度からは地区館職員も訪問に参加する予定。また、訪問時にアンケートを実施し、子どもたちにとってよりよい読書活動へのきっかけとなるようフィードバックする。
おはなし会	各図書館において、乳幼児および小学生を対象としたおはなし会（絵本の読み聞かせ、素話、パネルシアター等）を実施している。 〔中央図書館〕 ・ひよこタイム（乳児と保護者） 毎週月曜日 ・おはなし会（幼児・小学生） 毎週日曜日 ※「よう！あそぼう！かがくの本」の実施日を除く。 〔滝山図書館〕 ・ひよこタイム（乳児と保護者） 毎月第2・4月曜日 ・おはなし会（幼児・小学生） 毎週土曜日 〔ひばりが丘図書館〕 ・ひよこタイム（乳児と保護者） 毎週水曜日 ・おはなし会（幼児・小学生） 毎週水曜日 〔東部図書館〕 ・ひよこタイム（乳児と保護者） 毎週月曜日 ・おはなし会（幼児・小学生） 毎週月曜日	〔中央図書館〕 ・ひよこタイム＋おはなし会 実施回数：95回 参加人数：652人（子ども353人、大人299人） 〔滝山図書館〕 ・ひよこタイム＋おはなし会 実施回数：63回 参加人数：260人（子ども156人、大人104人） 〔ひばりが丘図書館〕 ・ひよこタイム＋おはなし会 実施回数：93回 参加人数：431人（子ども229人、大人202人） 〔東部図書館〕 ・ひよこタイム＋おはなし会 実施回数：135回 参加人数：876人（子ども556人、大人320人）	図書館では、乳幼児期から子どもが本に親しみ、喜びや楽しさを発見することができるよう、成長や発達段階に応じた読書を楽しむ機会として、おはなし会を定期的に実施している。 コロナ禍により、令和３年11月まではおはなし会を中止していたが、令和４年度は人数制限（定員5組）をした上で再開した。当初は、各館ともにコロナ前の参加人数に戻らない状況であったが、再開したことが徐々に定着してからは、定員以上訪れることもあった。地区館のうち特に東部図書館では、おはなし会への参加が多く見られた。しばらくおはなしを聞く機会がなかった子どもや保護者に向けて、改めておはなしや手遊びに親しむ機会を提供できた。 令和５年度からは人数制限を外し、通常通りの実施を予定しており、今後の参加状況を注視していく。

該当する第三次東久留米市子ども読書活動推進計画の基本方針：2 「読むこと 読書のたのしみ」を社会全体で			
事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
学校訪問	市立小学校の1年生の教室を訪問し、市立図書館の利用案内を行うとともに、推薦図書の紹介と素話や読み聞かせなどのおはなし会を実施している。	実施内容：市立図書館の利用案内及び、ブックリスト（「みんなでもう たのしいほん 1ねんせい」）の配布とリスト掲載本の団体貸出、素話や絵本の読み聞かせなどのおはなし会を行った。 実施校：市立小学校 12校（全校実施）	コロナ禍では未実施の学校や実施時期が遅れた学校もあったが、令和4年度は全校から申し込みがあり、ほとんどの学校で1学期中に行うことができた。マスクの着用が継続されていたため、子どもたちが声を出すことは難しいと判断し、通常行っていた参加型紙芝居をペープサートに代えるなど、プログラムを変更して実施した。 訪問時に配布したブックリスト「みんなでもう たのしいほん 1ねんせい」掲載本を全て読み終え図書館に来館すると「どくしょ王」に認定されるが、認定数はまだ多いとはいえないため、参加してもらえるような工夫が必要である。
学校用団体貸出	授業で使いたい資料等を申し込みに応じて学校に貸し出している。学年・学級・教科などの単位で利用可能。	実施内容：学校（学年・学級・教科など）からの申し込みに応じて、テーマに沿った資料の貸出を行う。年度ごとに登録更新が必要。 貸出団体・冊数：29団体（同じ学校の学年・クラス等が違う場合はそれぞれ1団体とみなす）、2,096冊 主なテーマ：SDGs、職業調べ、俳句の季語、野菜の育て方など、教科書で学習する内容に関するテーマや修学旅行等で行く場所についての資料	令和4年度は、利用の多いテーマや不足する分野について重点的に選書し、希望する資料の提供につなげることができた。 登録中の団体でも利用頻度に差があるため、学校によって団体貸出の認知度が違うことが考えられる。年度初めの学校向けのお便りで周知しているが、今後さらに団体貸出の周知に力を入れ、利用度を上げることが課題である。
よもう！あそぼう！かがくの本	毎回設定するテーマに沿って、本に書かれている実験や観察を行うとともに、本の読み聞かせやブックトークを実施している。 実施館：中央図書館、東部図書館 対象：小学生 協力：科学の本の読み聞かせの会「ほんとほんと」	〔中央図書館〕 実施回数：6回 参加人数：87人 〔東部図書館〕 実施回数：2回 参加人数：53人	平成15年から協力団体との協働で、小学生を対象として、実験や観察、その後の本の読み聞かせとブックトークを通して、本の世界と実体験の両面から科学をより身近に感じるための事業として実施している。 コロナ禍により、令和4年度は人数制限した上で実施した。中央図書館ではやべみつのり先生による研修会を経て、夏休み期間中にスペシャル回を実施する試みを行った。イベント終了後には、読み聞かせやブックトークで使用した本だけではなく、関連書籍についても手に取って見る様子や貸し出しを希望する参加者もいて、子どもたちに科学の面白さを伝えることができた。 令和5年度からは、今まで実施していなかった滝山図書館・ひばりが丘図書館でも開催を予定。市内全図書館での実施となるため、事前の周知を徹底していく。

該当する第三次東久留米市子ども読書活動推進計画の基本方針：3 子ども読書応援団の運用			
事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
子ども読書応援団	図書館が事務局となり、読み聞かせ等のボランティア参加者と連携して、東久留米市全域で子どもの読書活動を推進する。定例会での図書の紹介や情報交換のほか、図書館事業での読み聞かせなどのボランティア活動を実施している。	〔定例会〕 実施内容：毎月第4木曜日に中央図書館で開催。新刊紹介、季節のおすすめ本の紹介。テーマに沿った絵本について紹介や意見交換を行った。 所属人数：14人（令和5年3月現在） 〔読み聞かせ入門講座〕 実施内容：学校や幼稚園などで読み聞かせの機会のある方向けの初級講座 参加人数：15人（定員15名）	子どもの読書活動推進を目的として、平成29年度に発足。コロナ禍は展示やお便りでの情報提供を行っていたが、令和4年度から定例会や講座などを再開した。 6月に行った「読み聞かせ入門講座」でのPRもあって、参加希望の問い合わせがあり、5名の新規加入があった。 初心者のメンバーも読み聞かせの練習をした上で、中央図書館で行われているおはなし会にボランティアとして参加。市内のおはなし会に携わる団体に所属した方もいた。令和5年度はより多くの方々に子どもの読書活動に携わってもらうとともに、今後の活動の在り方についても改めて検討したい。

該当する第三次東久留米市子ども読書活動推進計画の基本方針：4 読書や図書館利用にハンディキャップのある子どもたちへの取り組み			
事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
ストーリーフェスタ	ネイティブスピーカーによる多言語のおはなし会として実施している。 実施館：中央図書館 協力：東久留米国際友好クラブ	実施内容：韓国語・中国語・スペイン語によるおはなし会 参加人数：子ども 15 人、大人 15 人（定員 30 名）	日本語を母語としない子どもたちへの取り組みとして、多言語によるおはなし会を協力団体と協働で、平成 24 年から毎年実施している。コロナ禍により、令和 2 年度は中止したが、令和 3 年度からは人数制限をした上で実施した。 選択する言語については、毎年検討した上で変更している。主な 3 言語（英語・中国語・韓国語）以外にも、令和 3 年度にはタミル語、令和 4 年度にはスペイン語での読み聞かせを実施した。日本語を母語としない子どもや外国語に興味のある子どもが、ネイティブスピーカーである読み手に話し掛けて会話を楽しんでいる様子も見られ、交流の場としての役割も担うことができている。 今後も事業を実施していく中で、その場限りではなく、継続した図書館利用につながるような工夫をしていきたい。
マルチメディアデイジー図書の閲覧・貸出	音声と画像付きの電子図書であるマルチメディアデイジー図書を、市内全館で閲覧できる。また、中央図書館では貸出も行っている。 対象:視覚に障害のある方、活字の本が読みづらい方、学習障害などで読書が困難な方など、すべての利用者	〔閲覧〕 実施内容：市内全図書館に設置してあるタブレット端末に、マルチメディアデイジー図書「わいわい文庫」の中から、障害の有無に関わらず利用できる、著作権者の許諾のある作品をダウンロード。 〔貸出〕 実施内容：著作権者の許諾のある作品については、紙資料と同様に貸出を行っている。（貸出制限のある資料は、ハンディキャップサービスの利用登録者のみ貸出可）	令和 4 年度より、タブレット端末を利用したマルチメディアデイジー図書の閲覧・貸出サービスを開始した。 サービスの周知については、館内掲示のほか、図書館見学等で来館した児童への案内は行っているが、まだ十分とは言えないため、今後の利用につながるよう広報していく。
バリアフリー資料セットの貸出	申し込みのあった対象施設に、バリアフリー資料のセット（1 セット 20 冊程度）の貸出を行った。 対象：特別支援学級のある市立小学校、わかくさ学園	実施内容：バリアフリー資料セットについて、個別に趣旨を説明の上、貸出を行った。セットの内容は、LL ブックやさわる絵本などのバリアフリー資料やユニバーサルデザイン図書、対象の子どもが読みやすい絵本、関心を持ちやすいテーマの図鑑など。 実施施設：市立小学校 3 校とわかくさ学園 貸出期間：1 学期中の希望日～年度末	初の試みであり、主に特別支援学級での利用を想定していたが、総合的な学習の時間など授業で使用する学校や、全クラスで閲覧したという学校もあった。 この結果を踏まえ、読書に特別な支援を必要とする子どもたちだけでなく、すべての子どもや先生に多様な形態の資料を紹介するため、令和 5 年度は全市立小学校に、読書への困難の有無に関わらず楽しめるユニバーサル資料セット（1 セット 10 冊）の貸出を行うこととした。